



学校だより

7月号(第547号)

令和3年6月30日

横浜市立すみれが丘小学校

学校教育目標

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって ががやきつづけるすみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

生涯体育

校長 栗原 信一

梅雨空とともに、このところ日差しも強く、気温も上昇、コロナ対策と併せて熱中症対策にも余念がありません。欠かせないのが熱中症指数の適時確認です。指数によっては、運動を制限、あるいは中止しなければなりません。また、体育の時間は、適切な距離を保ちながらマスクを外しています。児童が学校生活を安心安全に過ごすためにも、健康管理をしっかり行っていきたいと思えます。さて、健康管理と言えば私はランニングをすることが大好きです。ストレス



▲熱中症指数計

発散にもなりますし、健康に大変よいことは確かです。ランニングウォッチを身につけお気に入りのランニングシューズを履き、ストレッチを入念にして(年なので…(笑))、いざ出発です。いつも家の近くの緑道を走るのですが、鳥のさえずり、木漏れ日の光、さわやかな風、とてもいいものです。私にとって何にも代え難い至福の時でもあります。最近、コロナ以前に比べランナーの数が増えてきたことを感じます。巣ごもり生活の中で健康への意識が高まったためかもしれません。老若男女問わず、ランニングを楽しむ姿は、見ていてとてもよい光景です。私は、これまで体育の研究部に属してきましたが、その中で大切にしてきた言葉があります。それは、「生涯体育」という言葉です。子どもたちは、身体を動かすことが大好きです。しかし、大人になるにつれて運動から遠ざかってしまうことがあります。身体を動かすことの心地よさ、それによって得られる健康を大切にしていきたいものです。そんな、生涯体育の素地を養うために、小学校時代の体育科学習はとても重要だと思えます。小学生は、身体も柔らかく、巧緻性を養うのに最も適した時代だからです。小学校でできるようになった動きは、大人になっても不思議にできるものです。例えば、逆上がりや縄跳びなど…。そんなゴールデンエイジの小学生に運動の楽しさを味わわせることは、まさに生涯体育の入口と言えるでしょう。

最近、SDGs(持続可能な17の開発目標)を意識しながら教育課程を考えることがしばしばあります。こ



の教科のこの単元は、今後子どもたちが生きていく中で、どのように繋がっていくのかを考えるということです。例えば、前述の「生涯体育」という発想は学校教育、すなわちSDGsに謳われている「④質の高い教育をみんなに」をもって、「③すべての人に健康と福祉を」につながるものです。このような意味

で、体育科指導の質の向上を目指す中で、運動の楽しさにふれ、身体を動かすことの心地よさを児童に十分味わわせいくことが、今後の人生において持続可能で健康な生活を後押ししてくれるように思います。

6月は、児童計画委員会主催の「あいさつ運動」がありました。私も毎朝、正門に立ち、登校してくる子どもたちや地域の方々とあいさつを交わします。先日、地域の方からすみれが丘小の子どもたちはよくあいさつをしますねとお声掛けいただきました。なんだかとてもうれしく思いました。元気よくあいさつしてくれる子どもたちの「おはようございます！」の一声に今日も励まされ、頑張ります！

コロナ禍の日々が続きますが、地域、保護者の皆様の温かいご理解とご協力に感謝いたします。学校の様子は、ホームページにて日々、更新しております。ぜひご覧ください。今月もよろしくお願ひいたします。